

平成29年度供給・献血実績等について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

平成30年7月26日（木）
薬事・食品衛生審議会
血液事業部会献血推進調査会

1. 製造実績
2. 供給実績
3. 献血者確保に係る取り組みについて
4. 献血実績
5. まとめ

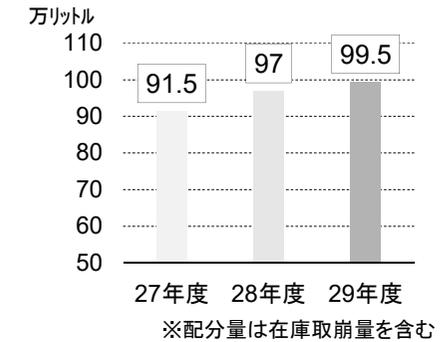
1. 製造実績

種別	献血推進計画における製造見込み量	製造量(実績)
赤血球製剤	51万リットル	51.6万リットル
血漿製剤	27万リットル	27万リットル
血小板製剤	17万リットル	17万リットル

・原料血漿

需給計画における確保目標量	確保量(実績)
93.5万リットル	92.0万リットル

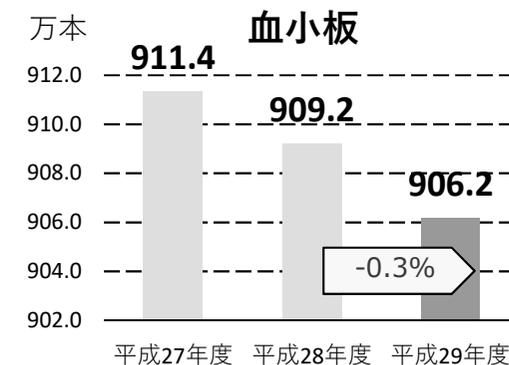
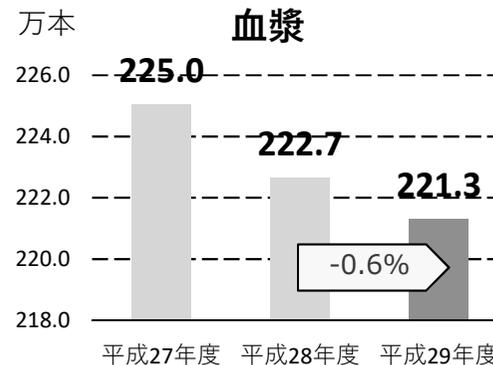
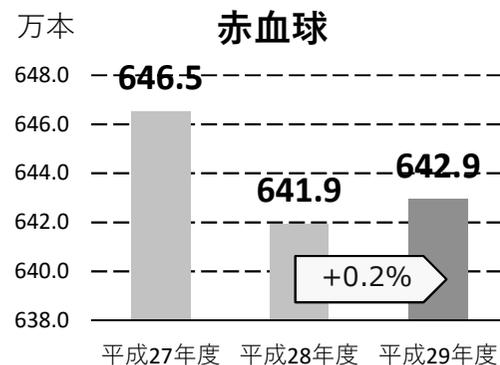
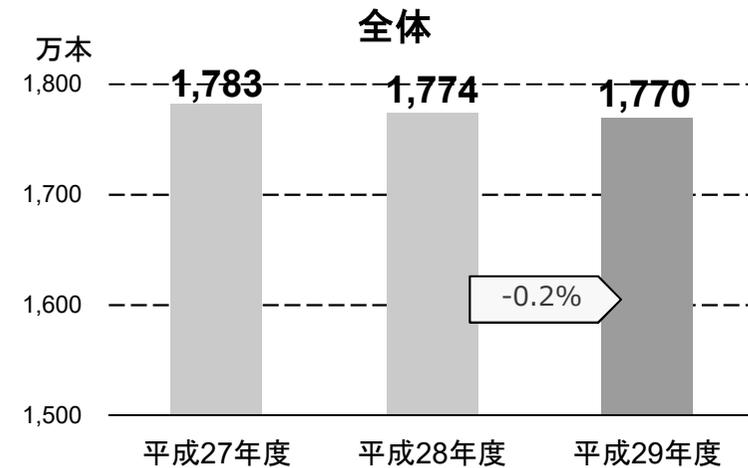
・国内製造販売業者等への配分量※



2. 供給実績

- ・全体は前年に対し、0.2%減の1,770万本
- ・赤血球製剤は0.2%増の642万本
- ・血漿製剤は0.6%減の221万本
- ・血小板製剤は0.3%減の906万本

※製剤本数は200mL献血由来を1本とした換算数



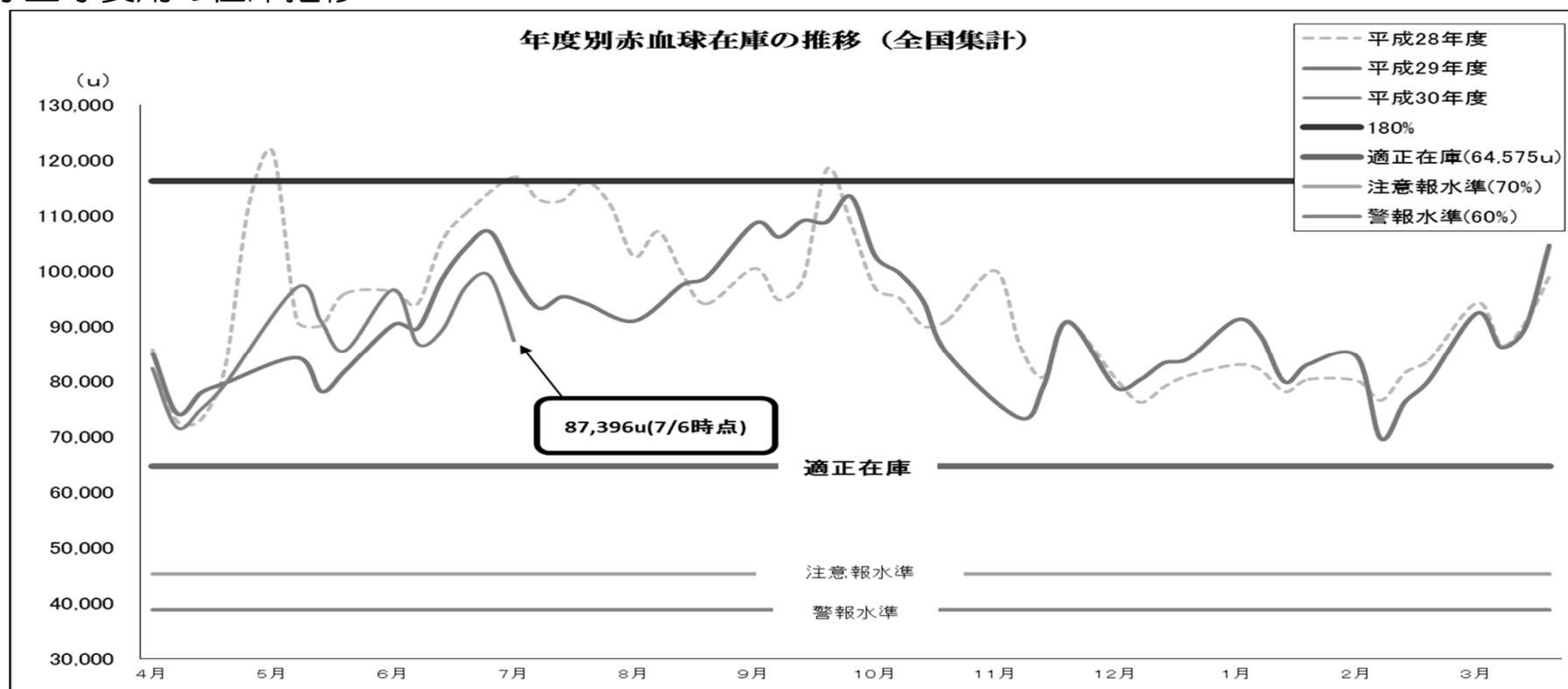
2. 供給実績

供給本数と献血者数（全血）

種別	供給本数 ※	献血者数
200mL献血	139,263	146,132
400mL献血	3,145,030	3,261,587
全血合計	3,284,293	3,407,719

※：供給本数は1単位（200mL献血由来）、2単位（400mL献血由来）の赤血球製剤と全血製剤の供給本数

赤血球製剤の在庫推移



年間を通じて安定供給が確実に行えている

3. 献血者確保に係る取り組みについて

(1) 広報資材の作成

- ①血液事業をわかりやすく理解していただくパンフレット「愛のかたち献血（小・中学生用及び一般用）」作成
 - ・平成29年度(28年度)：小・中学生用76,000部(87,000部)、一般用95,000部(110,000部)
- ②高校生や大学生をはじめ若年層に受け入れられやすい内容の情報誌「献血Walker」を作成
 - ・平成29年度：600,000部（平成28年度2,000,000部）
 - ⇒29年度は新たにデジタル記事化（2018年1/9～1/23の2週間で約542万回掲載、13,693回閲覧）
- ③献血啓発用ポスター（通年用）や「はたちの献血」キャンペーンポスター等を作成

・通年用	平成29年度：14,000部（平成28年度 15,000部）
・愛の血液助け合い運動月間	平成29年度：28,000部（平成28年度 28,000部）
・世界献血者デー	平成29年度：5,000部（平成28年度 5,000部）
・はたちの献血キャンペーン	平成29年度：19,000部（平成28年度 25,000部）



(2) 映像素材の作成

- ①テレビ、ラジオCM「通年」用及び「はたちの献血」キャンペーン用
- ②献血をわかりやすく視覚で訴えるインフォグラフィック動画「What's KENKETSU?（1分版、3分版）」を更新
 - ⇒各血液センターのSNS等からの情報発信やYouTube（30,000件超が視聴）等で動画配信



(3) 若年層に対する働きかけ

- ①年代別献血目標人数の設定（10～30代）
 - 平成29年度より、行政との連携により都道府県別に目標人数を設定
 - ・週単位での進捗管理（全国の血液センターで情報を共有）
 - ・各ブロック、各血液センターにおいて若年層強化対策を実施
- ②学校での献血機会を拡大し若年層献血者の確保を図るため、学校献血の配車体制を見直した
 - ・高等学校：65台増加 29年度配車台数1,307台（前年度：1,242台）
 - ・大学、専門学校等：194台の増加 29年度の配車台数3,020台（前年度2,826台）
 - （参考資料1-2 1ページおよび5ページ）
- ③献血セミナーや血液センター見学会等の実施（参考資料1-1 11ページ）

3. 献血者確保に係る取り組みについて

④「赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」

文部科学省及び厚生労働省の協力を得、命の尊さや献血の大切さを考える機会創出のため「赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」を実施

- ・平成29年度応募数：233,492句（募集ポスター13,000部、チラシ384,000部）
（平成28年度応募数：246,440句）

⑤学生献血推進協議会との連携

大学生を中心とする学生献血推進ボランティアの活動を支援し、同ボランティアの増員を目的とした冊子『FINEBOYS』を10万部作成（平成29年度同ボランティア：5,251人）



(4) その他の普及啓発 『LOVE in Actionプロジェクト』（献血推進プロジェクト）

⇒特に10代と20代前半の献血者を増加させることを目的に展開

①LINE、インターネット、SNSを主体とした情報の発信等

- ・LINEの開設  （約192万件友達追加、オリジナルスタンプダウンロード⇒約173万件）

（参考）同時期にスタンプを配布していた「Jリーグ」⇒150万件友達追加

- ・YouTube等による情報発信（小林麻耶氏による献血セミナー「いのちの授業」を動画配信）
- ・LOVE in Actionアンバサダー（女優：広瀬すず氏）による、献血メッセージやCM動画の配信

②受血者から献血者へのメッセージカード「ありがとうの手紙」を献血者等に配布し理解促進（110万枚）

- ・若者に人気のアニメ“ラブライブ！サンシャイン!!”や、スマホゲーム“モンスターストライク”とのタイアップによる献血推進 ⇒ヤフーのリアルタイム検索で「献血」のワードつぶやき最高3位を記録
※12,500件のお気に入り、7,300件のリツイート（2018年2月14日）

（参考）カーリング女子銅メダル12,000件のお気に入り、6,600件のリツイート

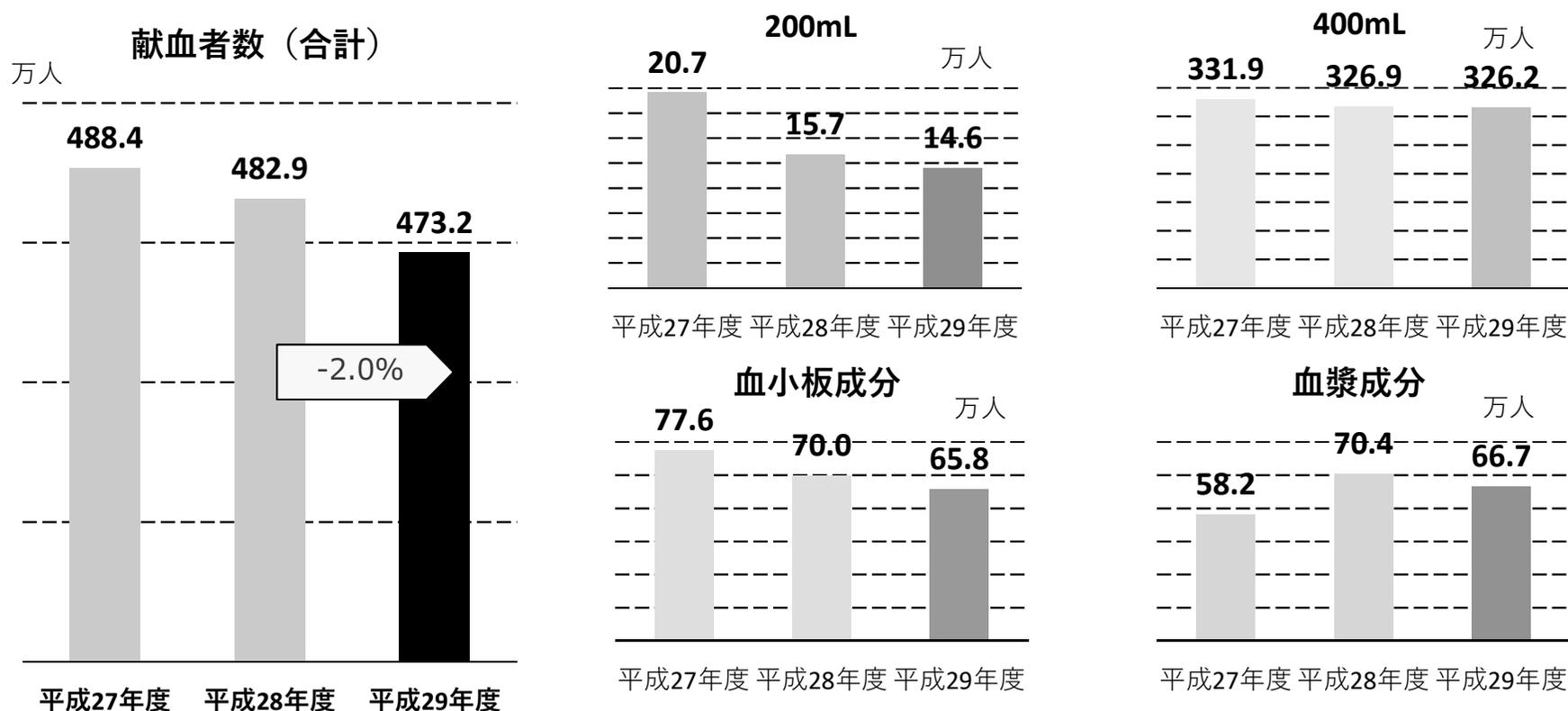
- ・LOVE in Action Meeting(LIVE)や全国各地で「ご当地大作戦」及び献血セミナー「いのちの授業」を実施
（MC：“レモンさんこと”山本シュウ氏、小林麻耶氏）

※「ご当地大作戦」…全国で2か所実施（島根県、奈良県）

※「いのちの授業」…全国で5校実施（神奈川県：学校法人 向上学園 向上高等学校 等）

4. 献血実績

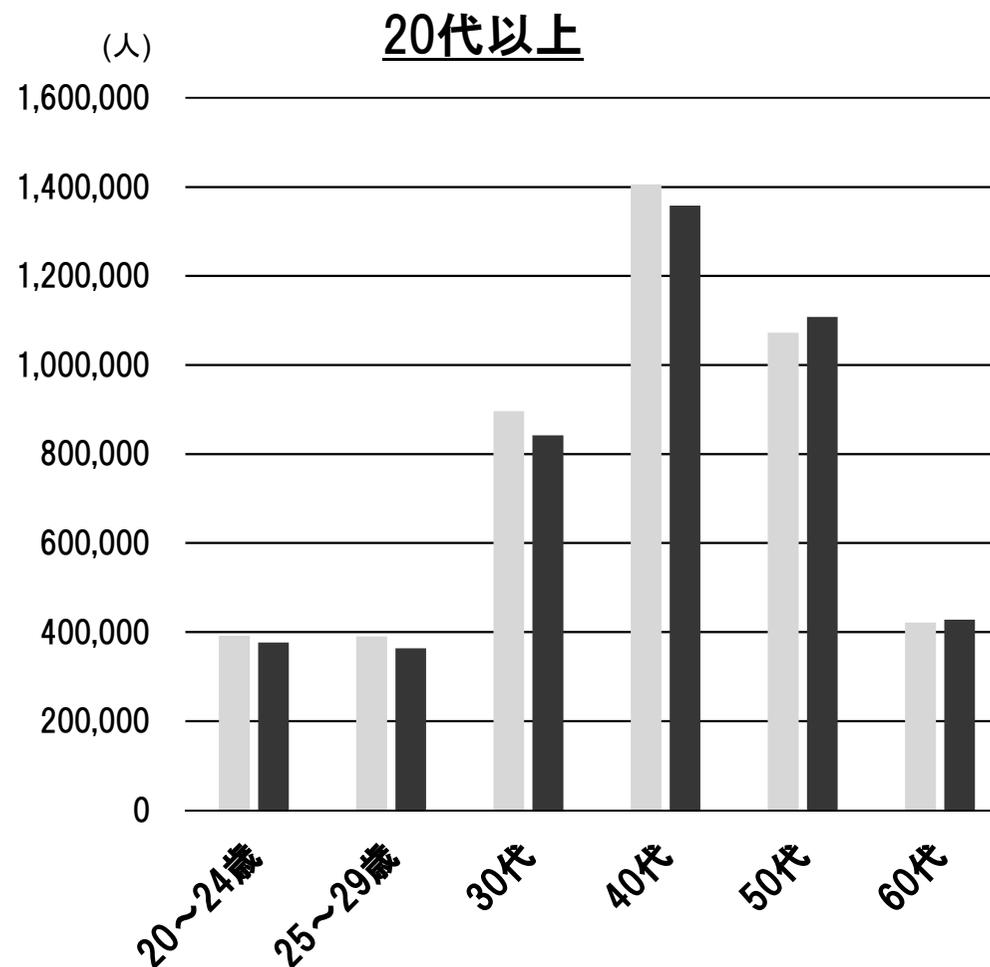
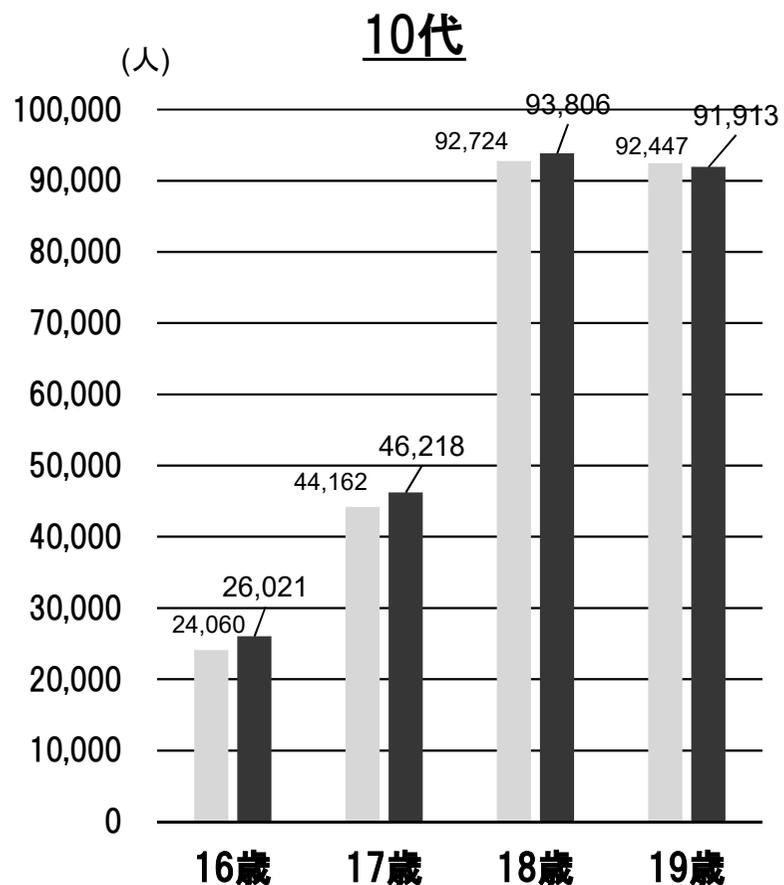
総献血者数は、平成28年度比で9.7万人減（-2.0%減）の473万人



・ 献血推進計画における確保目標量に対する実績

種別	目標量	採血量(実績)
全血採血	134万リットル	133.4万リットル
血漿成分採血	34万リットル	29万リットル
血小板成分採血	27万リットル	24.7万リットル

年代別献血状況（対前年度）

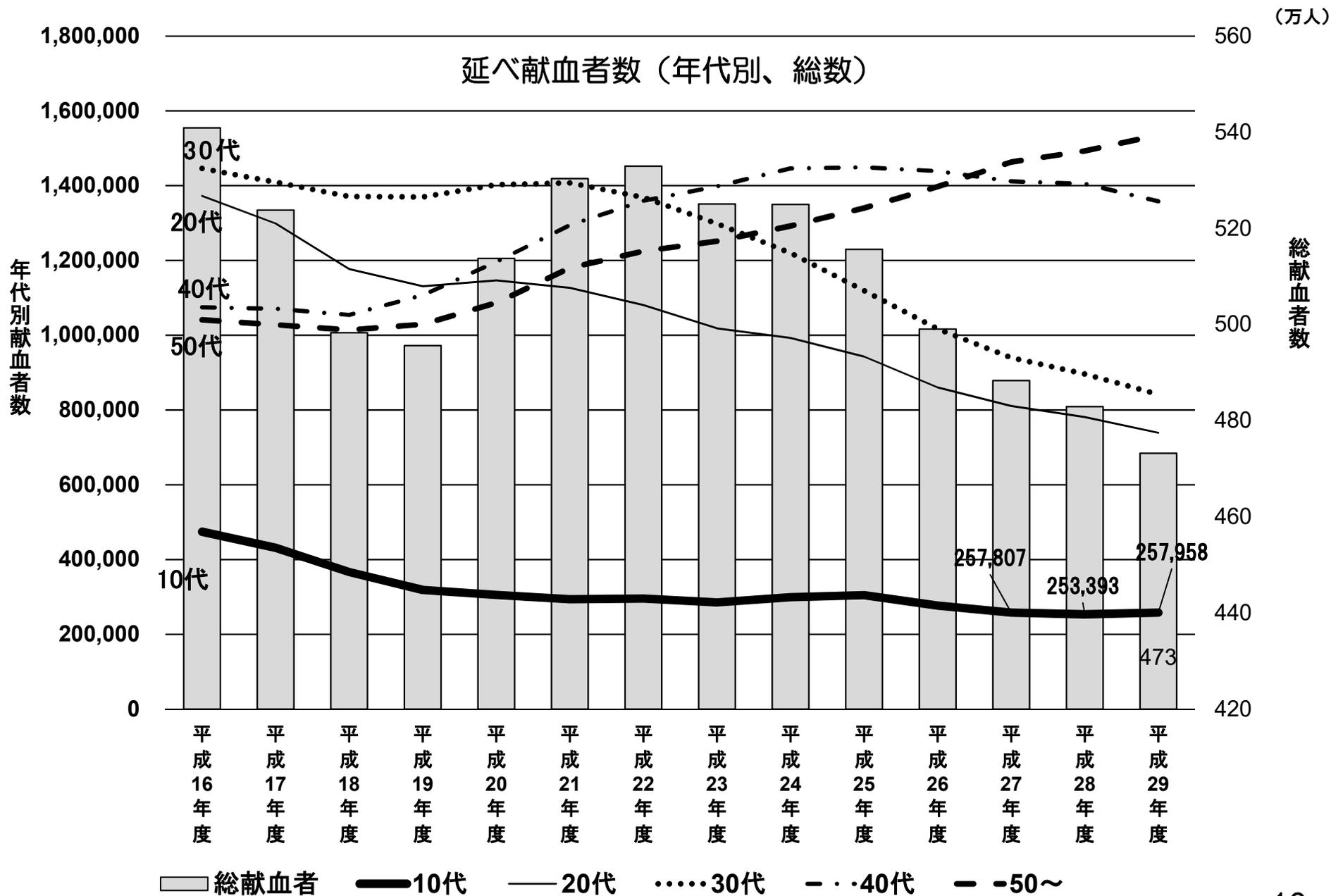


■ 28年度 ■ 29年度

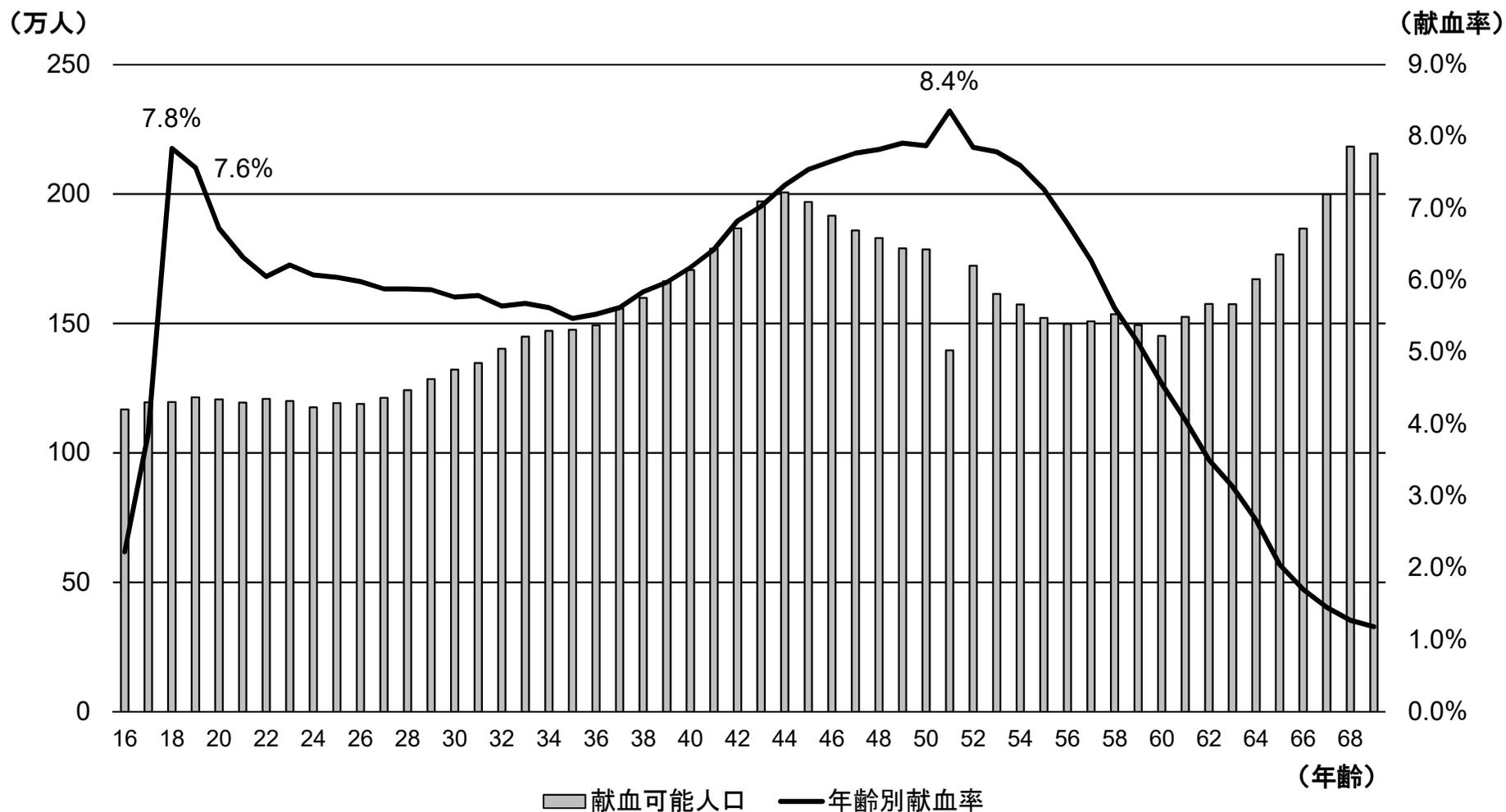
■ 28年度 ■ 29年度

10代の献血者は、4,565人（1.8%増）前年度を上回った。

4. 献血実績

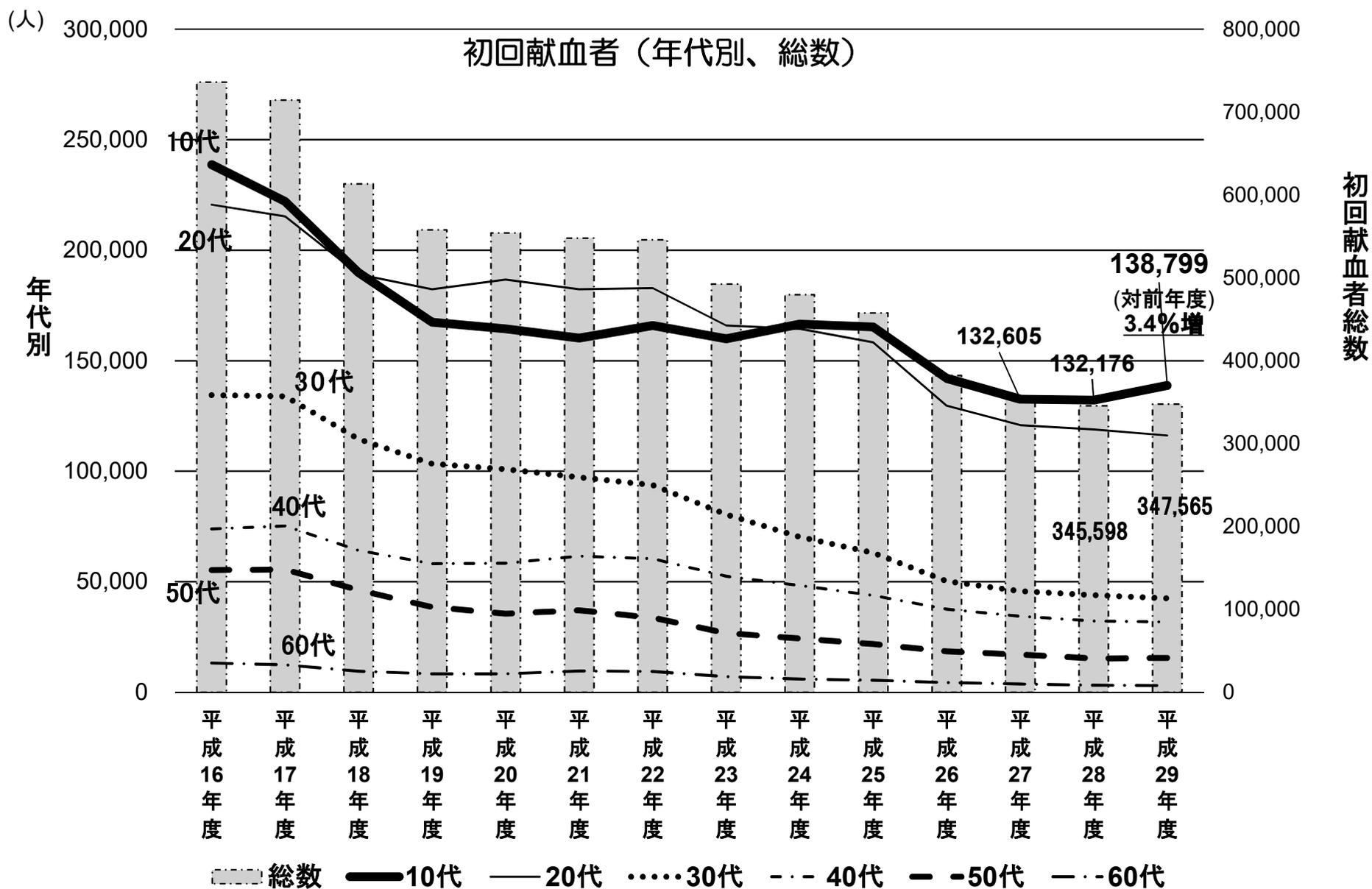


年齢別献血可能人口と献血率

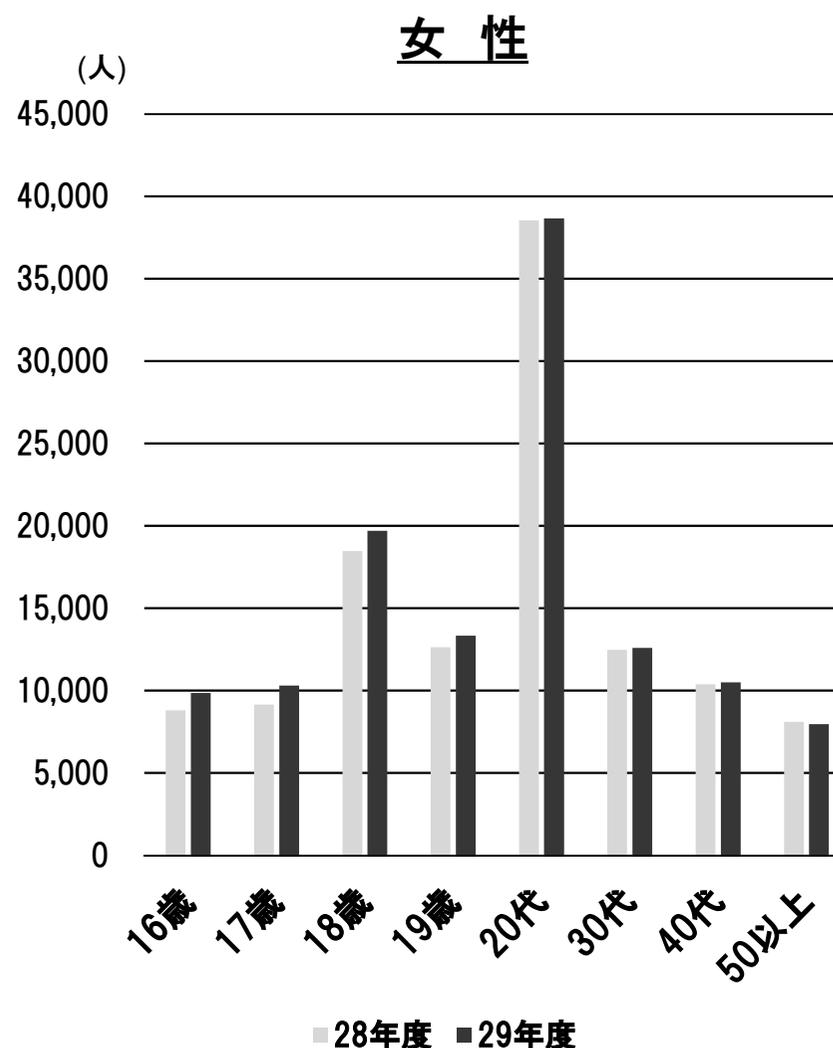
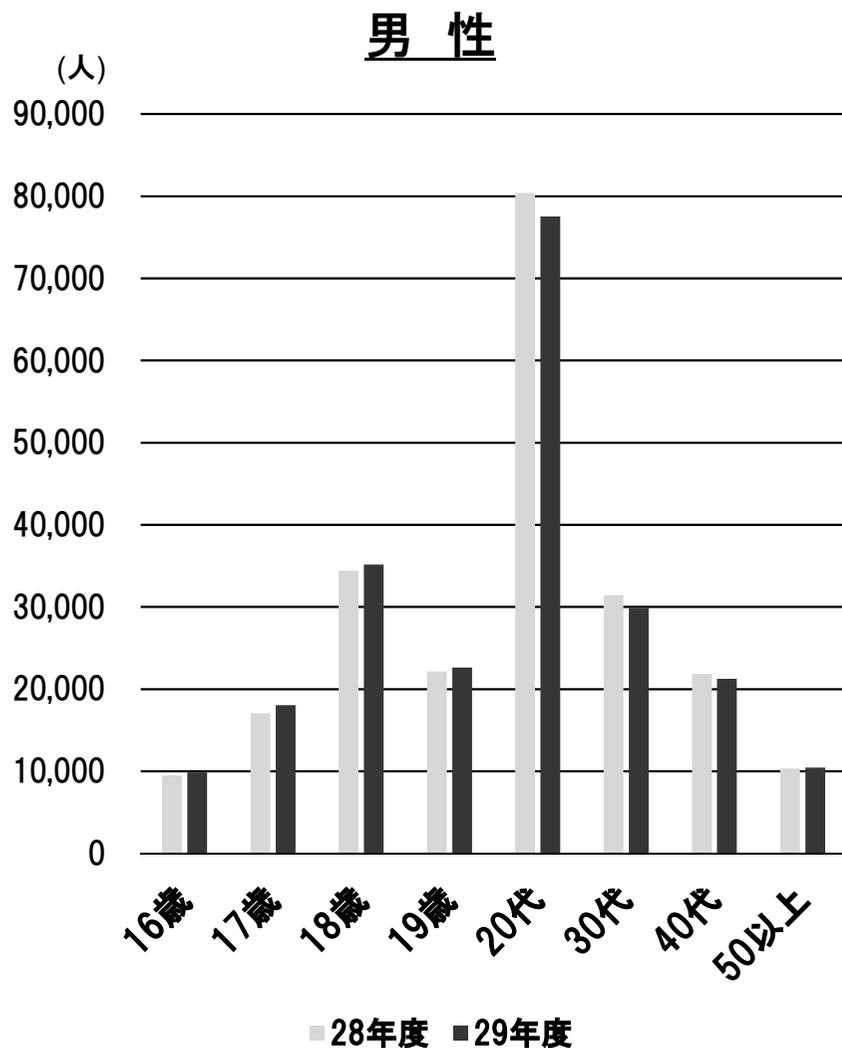


献血可能人口における10代の年代別献血率では、18歳(7.8%)、19歳(7.6%)をピークに35歳までは減少する傾向がある。

4. 献血実績



初回献血者（男女別）



10代の初回献血者は、合計6,623人（3.4%増）前年度を上回った。（男性2,495人、女性4,128人）

4. 献血実績

都道府県別10代献血者確保状況

年代	10代					年代	10代				
	16歳～19歳						16歳～19歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (28年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比	都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (28年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	14,730	15,141	14,657	102.8%	103.3%	滋賀県	1,940	2,378	1,637	122.6%	145.3%
北海道ブロック	14,730	15,141	14,657	102.8%	103.3%	京都府	4,870	4,836	4,836	99.3%	100.0%
青森県	3,595	3,707	3,531	103.1%	105.0%	大阪府	17,080	17,296	16,999	101.3%	101.7%
岩手県	2,366	2,327	2,324	98.4%	100.1%	兵庫県	10,280	10,424	9,867	101.4%	105.6%
宮城県	5,946	6,096	5,841	102.5%	104.4%	奈良県	1,890	1,942	1,618	102.8%	120.0%
秋田県	2,202	1,883	2,163	85.5%	87.1%	和歌山県	2,300	2,230	2,285	97.0%	97.6%
山形県	2,126	2,280	2,088	107.2%	109.2%	近畿ブロック	38,360	39,106	37,242	101.9%	105.0%
福島県	3,177	3,445	3,121	108.4%	110.4%	鳥取県	860	917	843	106.6%	108.8%
東北ブロック	19,412	19,738	19,068	101.7%	103.5%	島根県	798	846	782	106.0%	108.2%
茨城県	6,396	6,085	6,308	95.1%	96.5%	岡山県	4,473	4,518	4,385	101.0%	103.0%
栃木県	8,184	8,397	8,071	102.6%	104.0%	広島県	6,332	6,478	6,208	102.3%	104.3%
群馬県	5,729	5,665	5,650	98.9%	100.3%	山口県	1,994	2,007	1,955	100.7%	102.7%
埼玉県	15,545	14,658	15,330	94.3%	95.6%	徳島県	1,139	980	1,117	86.0%	87.7%
千葉県	12,293	11,854	12,123	96.4%	97.8%	香川県	1,783	1,840	1,748	103.2%	105.3%
東京都	29,668	27,591	29,258	93.0%	94.3%	愛媛県	2,961	2,850	2,525	96.3%	112.9%
神奈川県	15,042	14,879	14,834	98.9%	100.3%	高知県	1,406	1,426	1,378	101.4%	103.5%
新潟県	5,263	4,797	5,190	91.1%	92.4%	中四国ブロック	21,746	21,862	20,941	100.5%	104.4%
山梨県	3,719	3,368	3,668	90.6%	91.8%	福岡県	11,146	11,530	10,821	103.4%	106.6%
長野県	2,260	2,591	2,229	114.6%	116.2%	佐賀県	1,207	1,184	1,172	98.1%	101.0%
関東甲信越ブロック	104,099	99,885	102,661	96.0%	97.3%	長崎県	2,916	2,732	2,831	93.7%	96.5%
富山県	1,987	1,862	1,948	93.7%	95.6%	熊本県	4,102	4,727	3,983	115.2%	118.7%
石川県	1,920	2,133	1,882	111.1%	113.3%	大分県	1,891	1,909	1,836	100.9%	104.0%
福井県	1,075	1,078	1,054	100.3%	102.3%	宮崎県	2,259	2,100	2,193	93.0%	95.8%
岐阜県	3,215	3,371	3,152	104.9%	106.9%	鹿児島県	3,069	3,088	2,980	100.6%	103.6%
静岡県	7,208	7,365	7,067	102.2%	104.2%	沖縄県	4,021	3,929	3,904	97.7%	100.6%
愛知県	12,602	13,213	12,355	104.8%	106.9%	九州ブロック	30,612	31,199	29,720	101.9%	105.0%
三重県	1,952	2,005	1,646	102.7%	121.8%	合計	258,918	257,958	253,393	99.6%	101.8%
東海北陸ブロック	29,959	31,027	29,104	103.6%	106.6%	差異 (H29-H28)	+4,565				

4. 献血実績

都道府県別20代献血者確保状況

年代	20代					年代	20代				
	20～29歳						20～29歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (28年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比	都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (28年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	38,945	37,423	38,751	96.1%	96.6%	滋賀県	6,168	6,215	5,988	100.8%	103.8%
北海道ブロック	38,945	37,423	38,751	96.1%	96.6%	京都府	19,131	17,194	18,574	89.9%	92.6%
青森県	7,487	6,395	7,450	85.4%	85.8%	大阪府	65,478	60,970	63,571	93.1%	95.9%
岩手県	7,361	6,836	7,324	92.9%	93.3%	兵庫県	32,518	29,867	32,196	91.8%	92.8%
宮城県	17,191	16,371	16,690	95.2%	98.1%	奈良県	6,936	6,525	6,867	94.1%	95.0%
秋田県	7,712	5,843	7,674	75.8%	76.1%	和歌山県	5,079	4,672	5,054	92.0%	92.4%
山形県	6,354	6,029	6,322	94.9%	95.4%	近畿ブロック	135,310	125,443	132,250	92.7%	94.9%
福島県	11,718	11,272	11,660	96.2%	96.7%	鳥取県	3,542	3,323	3,524	93.8%	94.3%
東北ブロック	57,823	52,746	57,120	91.2%	92.3%	島根県	2,931	2,727	2,916	93.0%	93.5%
茨城県	14,118	13,048	13,978	92.4%	93.3%	岡山県	12,031	11,799	11,795	98.1%	100.0%
栃木県	11,569	10,935	11,511	94.5%	95.0%	広島県	21,440	19,127	21,228	89.2%	90.1%
群馬県	12,284	11,601	12,223	94.4%	94.9%	山口県	6,391	5,997	6,359	93.8%	94.3%
埼玉県	34,410	32,946	33,735	95.7%	97.7%	徳島県	4,367	3,857	4,345	88.3%	88.8%
千葉県	35,666	34,771	35,313	97.5%	98.5%	香川県	5,074	4,646	5,049	91.6%	92.0%
東京都	124,745	109,201	121,112	87.5%	90.2%	愛媛県	8,094	7,258	7,273	89.7%	99.8%
神奈川県	45,274	42,620	43,955	94.1%	97.0%	高知県	4,905	4,245	4,881	86.5%	87.0%
新潟県	15,743	14,027	15,665	89.1%	89.5%	中四国ブロック	68,775	62,979	67,370	91.6%	93.5%
山梨県	4,986	4,894	4,937	98.2%	99.1%	福岡県	31,871	28,981	30,943	90.9%	93.7%
長野県	10,963	9,986	10,908	91.1%	91.5%	佐賀県	4,546	4,253	4,523	93.6%	94.0%
関東甲信越ブロック	309,758	284,029	303,337	91.7%	93.6%	長崎県	8,625	7,312	8,582	84.8%	85.2%
富山県	5,991	5,562	5,961	92.8%	93.3%	熊本県	9,068	10,098	8,978	111.4%	112.5%
石川県	6,503	6,392	6,439	98.3%	99.3%	大分県	6,378	6,401	6,346	100.4%	100.9%
福井県	4,298	3,907	4,277	90.9%	91.3%	宮崎県	6,453	6,186	6,421	95.9%	96.3%
岐阜県	9,329	8,658	9,237	92.8%	93.7%	鹿児島県	9,572	9,615	9,524	100.4%	101.0%
静岡県	17,632	16,256	17,544	92.2%	92.7%	沖縄県	9,452	8,460	9,177	89.5%	92.2%
愛知県	48,853	47,360	47,430	96.9%	99.9%	九州ブロック	85,965	81,306	84,494	94.6%	96.2%
三重県	7,187	6,876	7,116	95.7%	96.6%	合計	796,369	738,937	781,326	92.8%	94.6%
東海北陸ブロック	99,793	95,011	98,004	95.2%	96.9%	差異 (H29-H28)	-42,389				

4. 献血実績

都道府県別30代献血者確保状況

年代	30代					年代	30代				
	30～39歳						30～39歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (28年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比	都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (28年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	42,723	40,379	42,510	94.5%	95.0%	滋賀県	8,635	8,215	8,466	95.1%	97.0%
北海道ブロック	42,723	40,379	42,510	94.5%	95.0%	京都府	18,027	16,143	17,849	89.5%	90.4%
青森県	9,483	8,139	9,436	85.8%	86.3%	大阪府	66,224	61,987	65,568	93.6%	94.5%
岩手県	8,659	8,098	8,616	93.5%	94.0%	兵庫県	37,715	33,853	37,342	89.8%	90.7%
宮城県	16,598	15,743	16,434	94.8%	95.8%	奈良県	8,254	7,851	8,213	95.1%	95.6%
秋田県	8,751	6,962	8,707	79.6%	80.0%	和歌山県	6,770	6,275	6,736	92.7%	93.2%
山形県	7,609	7,247	7,571	95.2%	95.7%	近畿ブロック	145,625	134,324	144,174	92.2%	93.2%
福島県	15,164	14,316	15,089	94.4%	94.9%	鳥取県	4,754	4,524	4,707	95.2%	96.1%
東北ブロック	66,264	60,505	65,853	91.3%	91.9%	島根県	3,844	3,509	3,825	91.3%	91.7%
茨城県	17,295	15,600	17,124	90.2%	91.1%	岡山県	13,907	13,324	13,769	95.8%	96.8%
栃木県	15,442	14,553	15,139	94.2%	96.1%	広島県	23,377	20,556	23,146	87.9%	88.8%
群馬県	16,048	15,060	15,889	93.8%	94.8%	山口県	8,858	7,876	8,814	88.9%	89.4%
埼玉県	40,407	38,636	39,615	95.6%	97.5%	徳島県	5,782	5,305	5,753	91.8%	92.2%
千葉県	40,336	38,036	39,545	94.3%	96.2%	香川県	7,004	6,318	6,935	90.2%	91.1%
東京都	119,444	107,805	115,965	90.3%	93.0%	愛媛県	10,082	9,039	9,382	89.7%	96.3%
神奈川県	54,590	49,710	53,000	91.1%	93.8%	高知県	5,914	5,125	5,885	86.7%	87.1%
新潟県	17,002	15,580	16,917	91.6%	92.1%	中四国ブロック	83,522	75,576	82,216	90.5%	91.9%
山梨県	5,628	5,267	5,600	93.6%	94.1%	福岡県	37,324	34,924	36,954	93.6%	94.5%
長野県	13,654	12,959	13,519	94.9%	95.9%	佐賀県	6,244	5,816	6,182	93.1%	94.1%
関東甲信越ブロック	339,846	313,206	332,313	92.2%	94.3%	長崎県	11,240	10,112	11,184	90.0%	90.4%
富山県	7,247	6,726	7,211	92.8%	93.3%	熊本県	12,000	13,068	11,881	108.9%	110.0%
石川県	7,699	7,324	7,623	95.1%	96.1%	大分県	9,257	8,898	9,165	96.1%	97.1%
福井県	5,328	4,690	5,275	88.0%	88.9%	宮崎県	8,680	7,767	8,594	89.5%	90.4%
岐阜県	12,202	11,416	12,141	93.6%	94.0%	鹿児島県	12,097	11,549	11,977	95.5%	96.4%
静岡県	25,097	23,047	24,849	91.8%	92.7%	沖縄県	13,555	12,310	13,160	90.8%	93.5%
愛知県	54,179	50,454	52,601	93.1%	95.9%	九州ブロック	110,397	104,444	109,097	94.6%	95.7%
三重県	10,285	9,778	10,183	95.1%	96.0%	合計	910,414	841,869	896,046	92.5%	94.0%
東海北陸ブロック	122,037	113,435	119,883	93.0%	94.6%	差異 (H29-H28)	-54,177				

5. まとめ

- 前年度と比較し、総供給本数は 0.2%減の1,770万本、総献血者数は9.7万人減（2.0%減）の約473万人で、滞りなく安定供給が行えた。
- 原料血漿については、概ね計画どおり確保し在庫取崩と併せ配分した。
- 10代については、前年度と比較し献血者数で延べ4,565人（1.8%増）、初回者で6,623人（3.4%増）増加した。
- 10代については、LINE、YouTube、SNS等の効果的な施策を展開しながら初回献血を推進し、献血への理解を促す策を講じることで、2回目以降の献血に繋がるよう積極的に取り組む。
- 需要予測に適応する中長期戦略へ取り組むにあたり、複数回献血率の高い40代以降の協力を維持しつつ、献血者満足度の向上に努め複数回献血に誘導することによる底上げを図る。

⇒献血推進・予約システム

- 小学生、中学生、高校生への啓発（献血セミナー等）については、厚生労働省をはじめ、国・行政との連携を一層高めながら積極的な展開を図る。